

## 第7章 検討記録

### 1 第1回新校準備会

施設一体型義務教育学校の設立に向け、円滑な諸準備を行うため必要な事項について意見交換する場として新校準備会を開催しました。第1回新校準備会の概要は以下に示すとおりです。基本構想で示した施設整備方針を基に、4つの協議の柱を設定し議論を行いました。

表 7.1 第1回新校準備会概要

項目	内容
開催日	令和4年(2022年)1月18日
対象	各校の校長及びPTA会長、各校区自治協議会会長、周辺保育園の保護者代表
実施方法	オンライン
参加人数	19人
内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 規約について</li><li>・ 基本構想の説明</li><li>・ 意見交換</li><li>・ テーブルワーク</li></ul>
資料	資料1 天明校区施設一体型義務教育学校 新校準備会 規約(案) 資料2 基本構想【概要版】 資料3 基本構想 資料4 天明地区における魅力ある学校の開校までに必要な検討事項 資料5 新校準備会ワークショップスライド
テーマ	「求められる天明校区の学校像とは」 協議の柱 A:子どもが主体的に活動できる教育環境 協議の柱 B:地域の文化を受け継いだ特色ある教育 協議の柱 C:避難所機能を有した施設整備 協議の柱 D:閉校後の校舎の利活用とまちづくり

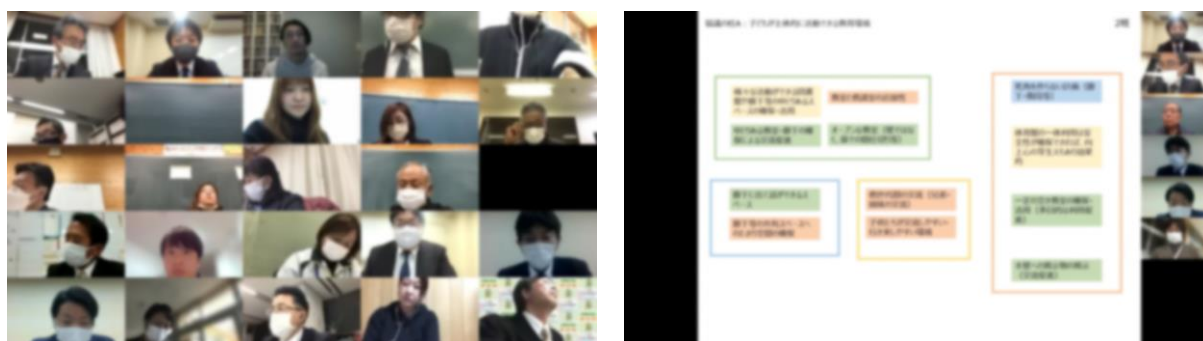


図 7.1 第1回新校準備会の様子

第1回新校準備会では、4つの協議の柱についてそれぞれグループワークにより意見交換を行いました。新校準備会終了後には参加者へ振り返り意見シートを配付し、発言しそびれた内容等を記入していただきました。グループワークにより得られた意見及び振り返りシートに寄せられた意見を以下に抜粋します。

表 7.2 第1回新校準備会 協議の柱 A「子どもが主体的に活動できる教育環境」の意見

類型	意見
諸室について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1学年が集まるような多目的な部屋がほしい</li> <li>・ テーブルや間仕切りで多目的に使える部屋があるとよい</li> <li>・ ゆとりある教室・廊下の確保による交流促進 等</li> </ul>
オープンスペースについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 廊下等の共有スペースへのたまり空間の確保</li> <li>・ 一定の空き教室の確保・活用(多目的な利用促進) 等</li> </ul>
配置・計画について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもたちが交流しやすい・行き来しやすい環境</li> <li>・ 見通しのよい配置計画(廊下・階段等) 等</li> </ul>
ソフト面について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スクールバスなど、通いにくい環境の児童生徒への考慮</li> <li>・ 多様な地域の方と接する場を活かす</li> <li>・ 上級生が下級生とふれあい、共に学ぶ時間の確保</li> <li>・ 児童が主体的に取り組める環境 等</li> </ul>

表 7.3 第1回新校準備会 協議の柱 B「地域の文化を受け継いだ特色ある教育」の意見

類型	意見
文化・歴史について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統に触れ、地域住民と交流できる場</li> <li>・ 天明地区全体の歴史を各地域の成り立ちからみんなで学べる環境等</li> </ul>
自然を活かした取り組みについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 有明海に面する立地を活かす</li> <li>・ 自然を活かした自然環境を取り入れた教育 等</li> </ul>
農業について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 米づくり、海苔づくり、あさり潮干狩りの体験活動 等</li> </ul>
交流の場について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の活動・交流空間の確保(地域と子どもの交流の場)</li> <li>・ 外部(地域)の方が訪れ、打合せや交流しやすい環境・動線確保</li> <li>・ いつでも学校に訪れやすい雰囲気作り 等</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各校の特色を活かした学校 等</li> </ul>

表 7.4 第1回新校準備会 協議の柱 C「避難所機能を有した施設整備」の意見

類型	意見
階数について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 階段が多いと高齢者の避難利用に課題がある</li> <li>・ 避難所として利用するにあたり、エレベーター、空調など施設設備の充実も重要</li> <li>・ 避難のしやすさを考えると低層階にも空き教室等、避難スペースを確保 等</li> </ul>
地盤・浸水について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地盤が弱いと、安全性の確保に配慮した計画が必要</li> <li>・ 他校と同様に 2m 程度の浸水を想定した避難所が欲しい 等</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 備蓄倉庫が近くにあるとよい</li> <li>・ 体育館に空調設備があるとよい</li> <li>・ トイレなどの水回りの数も衛生面から確保したほうが良い 等</li> </ul>

表 7.5 第1回新校準備会 協議の柱 D「閉校後の校舎の利活用とまちづくり」の意見

類型	意見
遊び場・グラウンド・体育館について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小さい子どもが遊べる施設</li> <li>・ スクールバス待機中に遊べる遊具・スペース</li> <li>・ 社会体育施設のような人工芝のグラウンド 等</li> </ul>
学びの場について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公民館のような教室などの利用</li> <li>・ 空き教室を活用した習い事を集約した施設 等</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者増加を踏まえた福祉施設</li> <li>・ お年寄りから子どもまで集まれるコミュニティの場</li> <li>・ 地域の歴史がわかる場 等</li> </ul>

表 7.6 第1回新校準備会 振り返りシートの意見

意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 敷地が狭い</li> <li>・ 新校の名称、制服や校歌・校章等決定、各小学校備品の移動(継続使用)と廃棄について等のタイムスケジュールが必要</li> <li>・ 耐震・免震</li> </ul>

## 2 第2回新校準備会

第2回新校準備会の概要は以下に示すとおりです。校舎配置及び必要諸室の案を基に、3つのテーマを設定し議論を行いました。

表 7.7 第2回新校準備会概要

項目	内容
開催日	令和4年(2022年)3月17日
対象	各校の校長及びPTA 会長、各校区自治協議会会長、周辺保育園の保護者代表
実施方法	対面（配置模型の展示）
場所	天明まちづくりセンター ホワイエ
参加人数	19人
内容	・ 第1回新校準備会の振り返り、質問回答 ・ テーブルワーク
資料	・ 施設配置比較 ・ 施設ゾーニング図 ・ 諸室リスト ・ 第1回新校準備会で出された意見への回答内容
テーマ	テーマ1:校舎配置・必要諸室案についての意見・要望 テーマ2:施設の避難所機能 テーマ3:小学校跡地利用



図 7.2 第2回新校準備会の様子

表 7.8 第2回新校準備会 テーマ1「校舎配置・必要諸室案 についての意見・要望」の意見

類型	意見
正門の位置	・ 正門を入れてすぐの位置にグラウンドがあるのは望ましくない
既存体育館の活用	・ 既存体育館を活用しないのはもったいない
グラウンドは広く	・ グラウンドは子どもの年齢差も考えて広くしてほしい ・ 校舎内にプールがあるとグラウンドが広くてよい ・ 敷地の拡張を見据えた校舎配置 ・ 田舎の利点として広い土地を使いたい
道路の拡張	・ 進路の拡張による通学路の安全確保 ・ 北側道路は狭い
周辺への影響	・ 北側と東側の農地への日影 ・ 農地との間の樹木について(落ち葉)
諸室について	・ 多目的室2室は可動間仕切りがよい ・ 理科、図工、技術、家庭科室は不足している ・ 印刷室は個別で設置 ・ シャワー室の設置
その他	・ 体育館が校舎から離れると移動時間がかかる ・ サブグラウンドは、小学校と中学校が別々に授業を行う時を考えると必要 ・ サブグラウンドがグラウンドと離れていると管理が難しい ・ 正門は良く見える所へ

表 7.9 第2回新校準備会 テーマ2「施設の避難所機能」の意見

類型	意見
防災	・ 屋上避難広場は少しでも広く ・ 災害を考慮しプールは冬も水を張る ・ 非常時は校庭内を一方通行とする
配置・諸室	・ 体育館近くに駐車場を設ける ・ 体育館付近にミーティングルームを設ける ・ 避難階段は少しでも多く ・ 備蓄品を屋上に ・ 車いす利用の方に配慮した EV(Elevator)や非常電源があると良い

表 7.10 第2回新校準備会 テーマ3「小学校跡地利用」の意見

類型	意見
活用方法	・ 避難所として活用 ・ 農業の研修の場として活用 ・ 芸術家など若い人を呼ぶための活用 ・ バリアフリーに対応した福祉施設 ・ 休み時に交流の場として立ち寄れる場所 ・ 地域の憩いの場 ・ スポーツ施設

### 3 第3回新校準備会

第3回新校準備会の概要は以下に示すとおりです。基本計画素案(抜粋版)を基に、意見交換を行いました。

表 7.11 第3回新校準備会概要

項目	内容
開催日	令和4年(2022年)5月20日
対象	各校の校長及びPTA 会長、各校区自治協議会会長、周辺保育園の保護者代表
実施方法	対面
場所	天明まちづくりセンター 天明ホール
参加人数	19人
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 規約について</li> <li>・ 基本計画素案(抜粋版)の説明、意見交換</li> </ul>
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 天明校区施設一体型義務教育学校 新校準備会 規約</li> <li>・ 「天明校区における魅力ある学校づくり」に向けた、これまでの取組について</li> <li>・ 天明校区施設一体型義務教育学校 基本計画素案(抜粋版)</li> <li>・ 第2回新校準備会で出された意見への回答内容</li> </ul>
テーマ	資料の内容について説明

表 7.12 第3回新校準備会 基本計画素案(抜粋版)への意見

類型	意見
施設配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第2回新校準備会で出された案における課題(近隣への日陰等)に対して、その対策を加味した案がでてきたことは良い。B案と比較し、F案はグラウンドが使いづらい</li> </ul>
避難所機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難所機能として、児童生徒を含めて何人程度収容できるか示してほしい</li> </ul>
通学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 熊本市内全域からの児童生徒の受け入れに関して、通学方法等の基準を示してほしい</li> </ul>
施設計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 靴を履いたまま活動ができる屋根のあるスペースがあると良い</li> </ul>



図 7.3 第3回新校準備会の様子

#### 4 第4回新校準備会

第4回新校準備会の概要は以下に示すとおりです。基本計画素案(これまでの検討状況)を基に、意見交換を行いました。

表 7.13 第4回新校準備会概要

項目	内容
開催日	令和4年(2022年)8月5日
対象	各校の校長及びPTA 会長、各校区自治協議会会長、周辺保育園の保護者代表
実施方法	対面
場所	天明まちづくりセンター 天明ホール
参加人数	14 人
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本計画(これまでの検討状況)及び義務教育学校開校までの教育環境の整備の説明、意見交換</li> <li>※教育環境の整備について               <ul style="list-style-type: none"> <li>義務教育学校の開校へスムーズにつなげるために、新校舎完成までに子どもたちの教育環境の充実をどのように図るべきか、事務局が3つの取組例を提示</li> <li>取組例①:小学校は4校体制のまま小中一貫教育の取組を推進</li> <li>取組例②:義務教育学校型の仮設校舎を設置し、その後、施設一体型義務教育学校へ移行</li> <li>取組例③:4つの小学校を先行して一体化し、分離型義務教育学校へ移行</li> </ul> </li> </ul>
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>天明校区施設一体型義務教育学校基本計画(これまでの検討状況)</li> <li>義務教育学校開校までの教育環境の整備</li> <li>天明校区施設一体型義務教育学校「新校準備会だより」</li> <li>第3回新校準備会で出された意見への回答内容</li> </ul>
テーマ	資料の内容について説明

表 7.14 第4回新校準備会 基本計画(これまでの検討状況)への意見

類型	意見
防災機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災に係る各機能について、基本計画の段階で整備方針を定めるべきではないか</li> </ul>
施設計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>廊下や階段を含めて施設を総合的にみて、子どもたちの学びのスペースをつくってほしい</li> <li>子どもたちに、個人のロッカーがあるとよい。低学年も含めて、きちんとした更衣室で着替えたほうがよい</li> <li>社会学習で使う古い道具等を保管するような室を設けてほしい</li> </ul>
跡地活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>閉校後の小学校の跡地をどう活かすか。学校跡地の運営方法を組み立てていく必要がある</li> </ul>

表 7.15 第4回新校準備会 義務教育学校開校までの教育環境の整備への意見

類型	意見
教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取組例の②と③について、教育環境の充実を早く取り組めば、それだけ成果はあるということは理解したが、費用と2回の引っ越しの負担が大きいのではないか。</li> <li>・ 取組例の②と③について、子どもたちや職員が環境に慣れたころに、また新しい校舎に移る必要があるため混乱を招くのではないか。</li> <li>・ 子どもたちが安心して学ぶ仕組みをつくりあげるまでの期間が必要。取組例①で進め、新校舎の供用開始時に義務教育学校をスタートすればよいのではないか。</li> </ul>



図 7.4 第4回新校準備会の様子

## 5 第5回新校準備会

第5回新校準備会の概要は以下に示すとおりです。ゾーニング図や配置案の比較表を基に、意見交換を行いました。

表 7.16 第5回新校準備会概要

項目	内容
開催日	令和4年(2022年)10月28日
対象	各校の校長及びPTA 会長、各校区自治協議会会長、周辺保育園の保護者代表
実施方法	対面
場所	天明まちづくりセンター 会議室B
参加人数	18人
内容	・ 校舎配置等や閉校後の小学校の利活用についての説明、意見交換
資料	・ 第4回新校準備会意見まとめと回答 ・ 必要諸室と予定面積 ・ 閉校後の天明四小学校の利活用について ・ ゾーニング図【F案】 ・ ゾーニング図【G案】 ・ 配置案の比較表 ・ 他都市の事例
テーマ	資料の内容について説明

表 7.17 第5回新校準備 ゾーニング図への意見

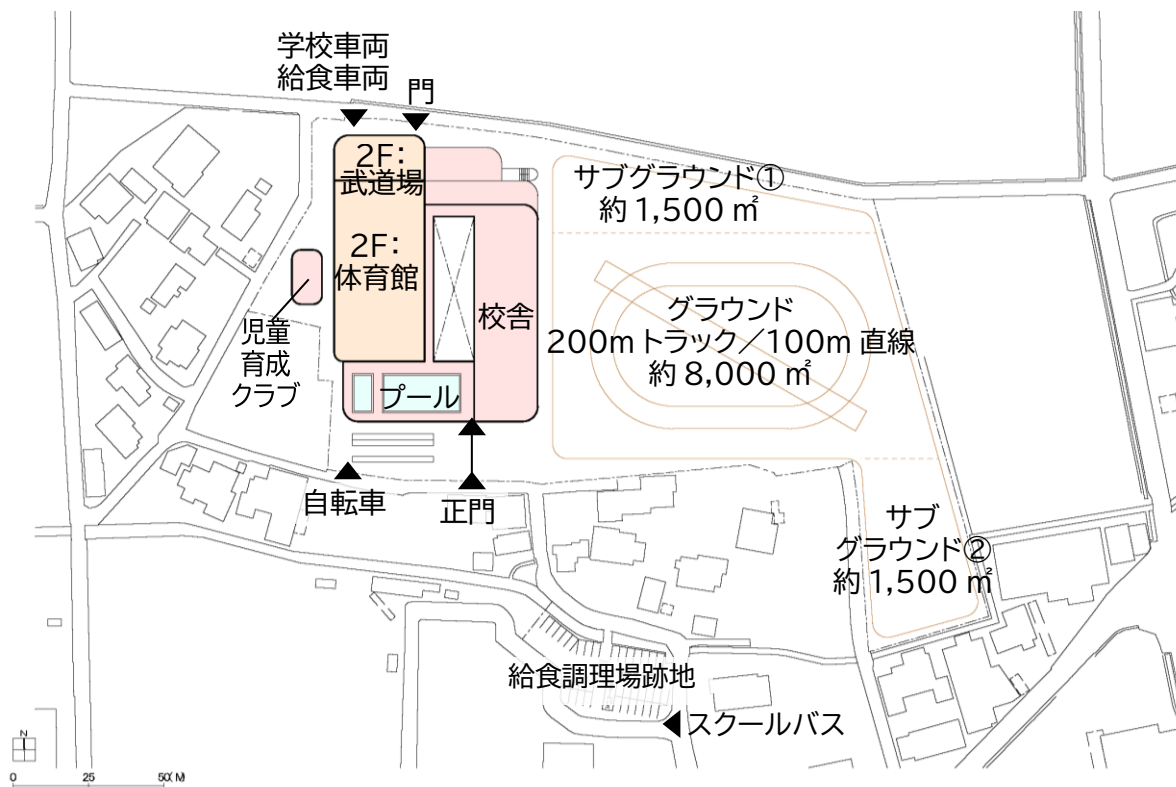
類型	意見
建設中の支援	・ 新しい施設等が完成するまで、部活動ができるような支援をしてほしい
必要諸室の数や面積	・ 案にある部室の数、更衣室・トイレ・倉庫、体育倉庫、保健室の広さや数等について、更に精査を進めてほしい。
北側道路の拡張	・ これまでも、天明中学校北側道路の拡張が課題になっていたが、拡張工事はできないか。
新しい配置図「G案」	・ 新案だと仮設校舎に入らなくていいことや、開校時期が1年早まるといったメリットがある。仮設校舎だけで卒業していく子どもがいることは、とてもかわいそうな気がしていた。今回提示された新案ができて本当によかったと思うので、新案でよろしく願いたい。



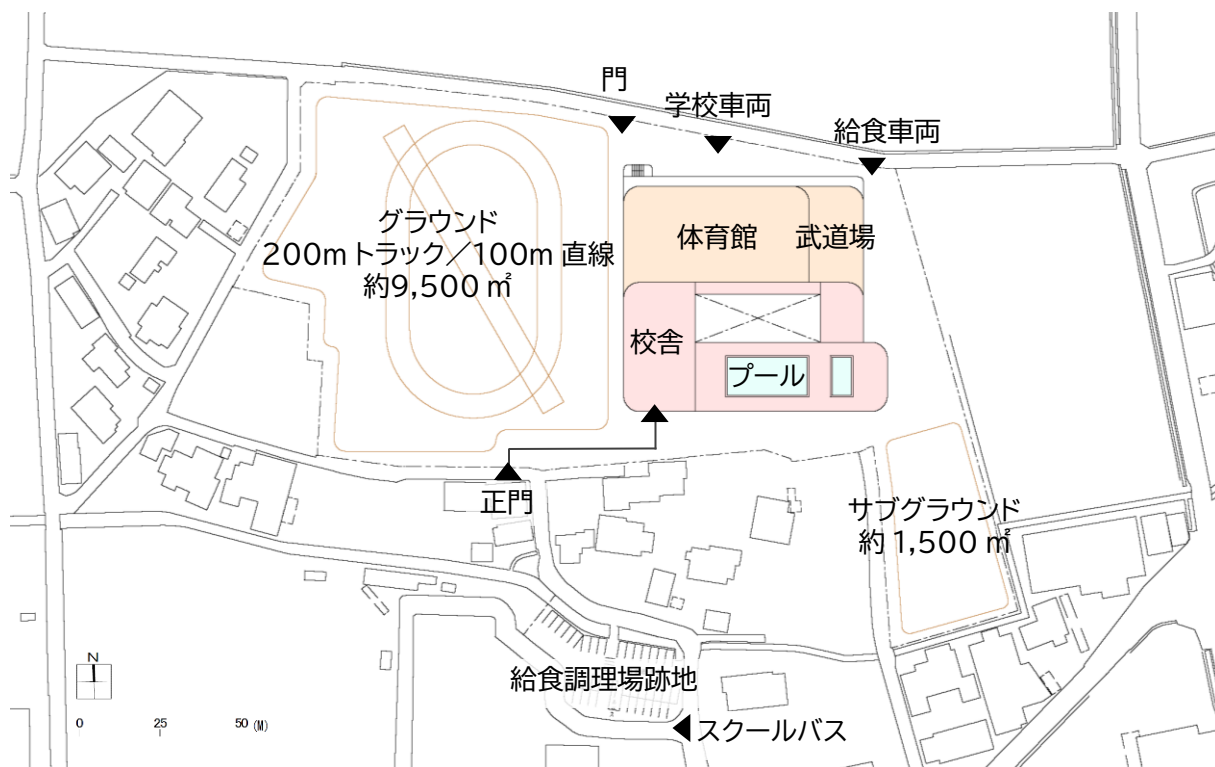
図 7.5 第5回新校準備会の様子

施設一体型義務教育学校 配置案の比較表(第2回新校準備会にて提示)

	現況	体育館建替え			体育館残置	
		A案:東側配置	B案:東側L型配置	C案:西側L型配置	D案:東側L型配置	E案:西側L型配置
配置イメージ						
計画自由度	—	・既存体育館の位置に制約を受けずに配置計画が可能			・小学校体育館と中学校体育館が最も遠い位置関係となり、一体的な活用は困難 ※既存体育館の一部改修が必要	
教室環境	普通教室は全室南面 普通教室は中庭、正門広場等に向く	◎ 普通教室は全室南面配置が可能 ○ 普通教室が南側隣地に向くが離隔確保	◎ 普通教室は全室南面配置が可能 ◎ 普通教室が校庭に向く	◎ 普通教室は全室南面配置が可能 ◎ 普通教室が校庭に向く	◎ 普通教室は全室南面配置が可能 ◎ 普通教室が校庭に向く	◎ 普通教室は全室南面配置が可能 ◎ 普通教室が校庭に向く
校庭環境	南東に開けている グラウンド面積:約9,000㎡(テニスコート含む、航空写真による概ねの面積) テニスコートにより不整形	○ 南に開けている ○ グラウンド:約8,000㎡ ○ サブグラウンド:約1,000㎡ ◎ 概ね整形	○ 南に開けている ◎ グラウンド:約6,500㎡ ◎ サブグラウンド:約4,500㎡ ◎ 概ね整形	◎ 南東に開けている ◎ グラウンド:約6,500㎡ ◎ サブグラウンド:約4,500㎡ ○ サブグラウンドが不整形	○ 南に開けている ○ グラウンド:約6,500㎡ ○ サブグラウンド:約2,500㎡ ◎ 概ね整形	◎ 南東に開けている ○ グラウンド:約8,500㎡ ○ サブグラウンド:約1,000㎡ ○ 一部不整形
動線	比較的コンパクトだが、増築等の影響でやや複雑な形状	◎ 校舎内動線をコンパクトにできる	△ 体育館までの動線が長くなる	○ 校舎内動線は一部長くなる	△ 体育館までの動線が長くなる	○ 校舎内動線は一部長くなる
安全性	管理諸室から正門、校庭が視認可能	◎ 正門・校庭に目がよく届く	○ 北側・南側に管理諸室を配置	◎ 正門・校庭に目がよく届く	○ 北側・南側に管理諸室を配置	◎ 正門・校庭に目がよく届く
児童生徒動線	正門から校舎が近い	△ 正門から校舎が遠くなる	○ 正門から校舎が近いが位置が変わる	◎ 正門から校舎が近い	○ 正門から校舎が近いが位置が変わる	◎ 正門から校舎が近い
歩車分離	車両出入が各所であり、歩車が混在	◎ 歩車分離が可能	◎ 歩車分離が可能	◎ 歩車分離が可能	◎ 歩車分離が可能	◎ 歩車分離が可能
防災機能	2階建て、体育館1階のため、高潮の際に避難できない	◎ 3階建て校舎、プール4階体育館が2階に設置可能	○ 3階建て校舎、プール4階小学校体育館のみ2階に設置可能	◎ 3階建て校舎、プール4階体育館が2階に設置可能	○ 3階建て校舎、プール4階小学校体育館のみ2階に設置可能	○ 3階建て校舎、プール4階小学校体育館のみ2階に設置可能
建設費	—	○ 基準	○ 基準	△ 仮設校舎が必要となるため、建設費が高くなる	◎ 体育館建替えより若干安価	△ 仮設校舎が必要となるため、建設費が高くなる
工事期間(供用開始)	—	◎ 新校舎供用開始:令和9年4月 ◎ 全体竣工:令和10年3月 ◎ ①新校舎建設 →②既存校舎解体 →③外構整備	◎ 新校舎供用開始:令和9年4月 ◎ 全体竣工:令和10年3月 ◎ ①新校舎建設 →②既存校舎解体 →③外構整備	◎ 新校舎供用開始:令和10年4月 ◎ 全体竣工:令和10年度 ○ ①仮設校舎建設(既存校庭) →②既存校舎解体 →③新校舎建設 →④仮設校舎解体・外構整備	◎ 新校舎供用開始:令和9年4月 ◎ 全体竣工:令和10年3月 ◎ ①新校舎建設 →②既存校舎解体 →③外構整備	○ 新校舎供用開始:令和10年4月 ○ 全体竣工:令和10年度 ○ ①仮設校舎建設(既存校庭) →②既存校舎解体 →③新校舎建設 →④仮設校舎解体・外構整備
工事中環境	—	○ 仮設校舎なし、校庭は天明グラウンド(既存武道場のみ先行解体)	◎ 仮設校舎なし、工事中も一部校庭利用(既存武道場のみ先行解体)	△ 仮設校舎が必要 ○ 体育館・校庭は天明グラウンド	○ 仮設校舎なしで工事が可能	△ 仮設校舎が必要 ○ 校庭は天明グラウンド



施設一体型義務教育学校 F案（第3回新校準備会にて提示）



施設一体型義務教育学校 G案（第5回新校準備会にて提示）



## 天明校区における魅力ある学校づくりに関する要望書

日頃より、天明校区の子どもたちの学校教育環境の充実のためにご尽力いただき感謝申し上げます。

さて、天明地区にある小学校4校については、少子化の影響から全学年が単学級となっており、今後も児童数が減少し、複式学級が継続する学校や今後複式学級になることが見込まれる学校があることから、子どもたちにとってどのような教育環境が望ましいか検討するため、各校区の自治協議会・PTAの代表者からなる地域懇談会を設置いたしました。

当懇談会では、天明校区の子どもたちにより良い教育環境を提供することを第一に考え、各校区のまちづくりも考慮しながら協議を行い、要望事項をまとめました。その内容につきましては、下記に示すとおりです。

今後は、この要望事項をもとに、子どもたちにとって望ましい教育環境を整備することについて、お取り計らい下さいますようお願いいたします。

### 記

#### 1. 小中一貫教育に適した教育環境の整備

熊本市が推進する小中一貫教育の取り組みにより、約500名の児童・生徒が、発育状況に応じ、授業、休憩時間の運動・遊び、特別活動等において安全にのびのびと活動できる規模と機能を確保した校舎、グラウンド等を整備すること。

#### 2. 特色あるカリキュラム、教育課程の編成

先進的で特色あるカリキュラムの編成と新教科の設定を検討すること（中学校から小学校への乗り入れ授業の実施・小学1年生から英語の授業の実施等）。施設一体型の義務教育学校の設置について検討し、一体型施設の特色を十分に活かし、子ども一人ひとりのよさを伸ばし「深い学び」につながる指導、日常的で幅広い異年齢交流を行うよう工夫すること。

#### 3. 各種災害による学校教育活動への影響の抑制及び地域住民のための避難所機能を有した施設整備

天明校区は、高潮や津波の被害が想定されることを踏まえ、児童・生徒の安心、安全を確保するための万全の対策を講じ、地域住民が緊急時に避難できる3階建て以上の施設整備を行うこと。

#### 4. 通学支援

小学校と中学校の施設が一体化することなどにより、通学距離が遠くなる児童については、スクールバスでの通学支援を行うこと。また、スクールバスのルート作成においては保護者・地域の要望を十分に踏まえたものとする。

#### 5. 地域住民の意見を取り入れた閉校後の校舎の利活用とまちづくり

地域住民と行政が密に連携し、地域の活性化につながるよう、閉校後の校舎の利活用について検討し、まちづくりを行うこと。

天明校区における魅力ある学校づくりに向けた地域懇談会 名簿

	氏 名	役 職
1	角居 恭一	銭塘校区(新)自治協議会会長 天明地域自治協議会連合会会長
2	吉田 司	中緑校区(新)自治協議会会長 天明地域自治協議会連合会副会長
3	中村 悟	中緑校区(旧)自治協議会会長
4	船田 隆二	銭塘校区(旧)自治協議会会長
5	内永 一也	奥古閑校区自治協議会会長 ※令和2年度から継続
6	徳本 正也	川口校区(旧)自治協議会会長
7	岩上 好也	川口校区(新)自治協議会会長
8	吉村 陽子	天明中学校(旧)PTA 会長
9	吉村 隆真	天明中学校(新)PTA 会長
10	中村 良太	中緑小学校(旧)PTA 会長
11	野田 智之	中緑小学校(新)PTA 会長
12	児安 貢宏	銭塘小学校(旧)PTA 会長
13	松田 友里	銭塘小学校(新)PTA 会長
14	上田 賢二	奥古閑小学校(旧)PTA 会長
15	林田 徳久	奥古閑小学校(新)PTA 会長
16	藤森 奈緒美	川口小学校(旧)PTA 会長
17	松本 照臣	川口小学校(新)PTA 会長

# 天明校区施設一体型義務教育学校 基本構想

令和3年(2021年)12月 熊本市教育委員会



## 天明校区の小中学校の現状等

### (1) 天明校区の既存小中学校の現状及び特色(令和3年(2021年)5月1日現在)

現在、天明校区の小学校においては、児童数が減少し、学年単学級または複式学級となっています。中学校を含めた児童生徒数は、ここ20年間で約4割程度減少し、今後も減少が続くことが見込まれています。

平成13年度(2001年度)			令和3年度(2021年度)		
中 緑 小	47 名	5 学級	中 緑 小	48 名	5 学級
銭 塘 小	142 名	6 学級	銭 塘 小	110 名	7 学級
奥古閑小	223 名	8 学級	奥古閑小	130 名	7 学級
川 口 小	121 名	6 学級	川 口 小	64 名	6 学級
天 明 中	319 名	10 学級	天 明 中	166 名	7 学級
合 計	852 名	35 学級	合 計	518 名	32 学級

(▲334名) (▲3学級)

天明校区の小学校では小規模のよさを活かした学習支援が行われていますが、その反面、小規模であるがゆえに、クラス替えができず人間関係が固定化し、授業で多様な考えを引き出しにくいこと等の学校運営上の課題が発生しています。

### (2) 地域住民からの要望

義務教育9年間の学校教育目標を設定し、系統性を確保した教育課程を編成・実施する学校づくりを行うことを念頭に、小中一貫教育の導入等について地域説明を行い、令和3年(2021年)5月21日、天明校区地域懇談会より施設一体型義務教育学校設置について、要望書の提出を受けました。

## 教育の基本的な考え方と施設整備等方針



### (1) 小中一貫教育に適した教育環境の整備

小中一貫教育を通して、より良い教育環境を目指し、天明校区の特色を活かした魅力ある学校づくりに向け、義務教育学校を設置します。

義務教育学校では、9年間の一貫した指導や小学校高学年の教科担任制、異学年の交流活動等の多様な教育実践が可能となり、児童生徒の成長や教職員の指導の面で高い効果が期待できます。

#### 施設一体型義務教育学校設置案

##### ア 設置形態:

天明校区の4小学校(中緑小学校、銭塘小学校、奥古閑小学校、川口小学校)と天明中学校を一体化し、天明中学校の敷地内に新校舎設置を検討

##### イ 開校年度:

令和9年度(2027年度)の開校を目指す

##### ウ 学校規模:

1学年 2学級

9学年×2学級の18学級と、特別支援学級の設置を検討



## (2) 社会状況の変化に対応する教育環境の整備

社会の状況に対応し、主体的に行動できる子どもを育む教育環境の整備を行います。

### 【教育環境整備の視点】

- ア 令和の日本型学校教育<sup>※1</sup>のスタンダード
- イ インクルーシブ教育システムの構築・性の多様性の尊重
- ウ 教職員の働く場としての機能向上
- エ 公共施設の資産総量の最適化

※1 中央教育審議会答申(令和3年(2021年)1月)の中で、日本の学校教育は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた「令和の日本型学校教育」を目指すとしています。



文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」(中間報告)における、新しい時代の学びを実現する空間イメージ例

## (3) 特色あるカリキュラム、教育課程の編成

施設一体型義務教育学校の特色である、教育課程編成の自由度を活かした「先進的・特色あるカリキュラム」、小中学校の教職員組織が一体化することで可能となる「9年間の切れ目のない学びの提供」、日常的な「異学年交流」を相互に関連させたカリキュラムマネジメント<sup>※2</sup>を取り入れ、義務教育の質の向上を図ります。

※2 学校が教育目標の実現に向け、教育課程を計画的かつ組織的に編成・実施・評価することをいいます。



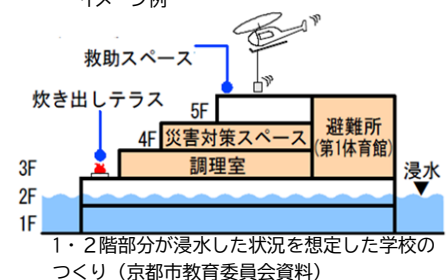
文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」(中間報告)における、地域の人たちと連携・協働する共創空間イメージ例

## (4) 避難所機能を有した施設整備

関係機関と連携し、児童・生徒の安全・安心を確保するとともに、地域住民も避難できる3階建て以上の施設を検討します。

### 【京都市立向島秀蓮小中学校(義務教育学校)の事例】

過去の水害被害を教訓に、体育館を3階、プールを5階、屋上にヘリからの物資供給、救助が可能なスペースを設置し、避難時の対応に備えている



## (5) 通学支援

天明校区において、小中学校の施設の一体化により、通学距離が遠くなってしまう児童が見込まれるため、スクールバス等での通学を検討します。

## (6) 「閉校後の校舎の利活用」と「まちづくり」

校舎の利活用について、地域住民へのアンケート、民間事業者とのマーケットサウンディング<sup>※3</sup>等を早期に実施していきます。また、施設一体型義務教育学校を建設する際には、「まちづくり」の観点からの周辺公共施設の複合化についても検討します。

※3 公共施設の整備や運営、公的不動産の利活用等の事業検討段階において、民間事業者の意見や新たな提案等を把握し、新たな事業案件の形成や事業の進展を図ることを目的として実施する市場調査・情報収集のことをいいます。

## 今後のスケジュール



施設一体型義務教育学校の施設整備事業の手法については、従来方式とPPP/PFI手法<sup>※4</sup>とを比較、最適な手法を検討し、令和9年(2027年)4月の開校を目指します。

※4 PPP(Public Private Partnership)とPFI(Private Finance Initiative)

PPPは公民連携手法のこと。公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法です。

PFIはPPPの代表的な手法の一つで、従来、国や地方公共団体が行っていた公共事業(設計、建設、維持管理、運営等)を民間の資金や経営能力及び技術的能力を活用して効率的かつ効果的に実施し、公共サービスを提供する事業手法です。